

月

監督・脚本 | 石井裕也

宮沢りえ 磯村勇斗 二階堂ふみ / オダギリジョー

月

監督・脚本 | 石井裕也

企画・エグゼクティブプロデューサー | 河村光康
製作 | 伊達百合 竹内力 プロデューサー | 長井龍 永井拓郎
アシリエイトプロデューサー | 増嶋太郎 行実良
撮影 | 鎌苅洋一 照明 | 長田達也 録音 | 高須寛健吾 美術 | 原田潤生 美術プロデューサー | 聡明元紀 装飾 | 石上淳一 衣裳 | 宮本まき江 ヘアメイク | 豊川京子 千葉友子(宮沢りえ)
特殊メイク・スーパーバイザー | 江川根子 編集 | 早野亮 VFXプロデューサー | 赤羽智史 音響効果 | 染崎浩治 特撮 | 石塚義 助監督 | 成瀬謙一 制作担当 | 高明 キャスティング | 田嶋朝江
制作プロダクション | スターサンズ 制作協力 | RIKIプロジェクト 配給 | スターサンズ
2023年 日本 / 144分 / カラー / シネスコ. 5.1ch ©2023/月 製作委員会
tsuki-cinema.com #tsuki_movie

10.13 fri.

©2023/月 製作委員会

長井惠里 大塚ヒロタ 笠原秀幸
板谷由夏 モロ師岡 鶴見辰吾 原日出子 / 高畑淳子

原作 | 辺見庸(月)(角川文庫刊) 音楽 | 岩代太郎

企画・エグゼクティブプロデューサー | 河村光康 制作プロダクション | スターサンズ 制作協力 | RIKIプロジェクト 配給 | スターサンズ
tsuki-cinema.com #tsuki_movie

10.13 fri.

©2023/月 製作委員会

2023年、世に問う大問題作が放たれる——

実際の障害者殺傷事件を題材に、2017年に発表された辺見庸の小説「月」。

本作は、『新聞記者』、『空白』を手掛けてきたスターサンズの故・河村光庸プロデューサーが最も挑戦したかった原作だった。

それを映画化するということは、この社会において、^{タブー}禁忌とされる領域の奥深くへと大胆に踏み込むことだった。オファーを受けた石井監督は、「撮らなければならない映画だと覚悟を決めた」という。その信念のもと、原作を独自に再構成し、渾身の力と生々しい血肉の通った破格の表現としてスクリーンに叩きつける。

そして宮沢りえ、オダギリジョー、磯村勇斗、二階堂ふみといった第一級の俳優陣たちもまた、ただならぬ覚悟で参加した。本作は日本を代表する精鋭映画人たちによる、最も尖鋭的な総力をあげた戦いだといっても過言ではない。もはや社会派だとか、ヒューマンドラマだとか、有り体の言葉では片づけられない。

なぜならこの作品が描いている本質は、社会が、そして個人が問題に対して“見て見ぬふり”をしてきた現実をつまびらかにしているからだ。本作が世に放たれる——それはすなわち、「映画」という刃が自分たちに向くということだ。覚悟しなければならない。そう、もう逃げられないことはわかっているから——。

月

監督・脚本 | 石井裕也

月

監督・脚本 | 石井裕也

深い森の奥にある重度障害者施設。ここで新しく働くことになった堂島洋子（宮沢りえ）は“書けなくなった”元・有名作家だ。彼女を「師匠」と呼ぶ夫の昌平（オダギリジョー）と、ふたりで慎ましい暮らしを営んでいる。施設職員と同僚には作家を目指す陽子（二階堂ふみ）や、絵の好きな青年さとくん（磯村勇斗）らがいた。そしてもうひとつの出会い——洋子と生年月日が一緒の入所者、“きーちゃん”。光の届かない部屋で、ベッドに横たわったまま動かない“きーちゃん”のことを、洋子はどこか他人に思えず親身になっていく。

しかしこの職場は決して楽園ではない。洋子は他の職員による入所者への心ない扱いや暴力を目の当たりにする。そんな世の理不尽に誰よりも憤っているのは、さとくんだ。彼の中で増幅する正義感や使命感が、やがて怒りを伴う形で徐々に頭をもたげていく——。

そして、その日はやってくる。